

試験開始の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。



試 験 問 題

（国語）

注意事項

- 1 試験は全問マークシート方式です。解答用紙に、正しく記入・マークされていない場合は、採点できないことがあります。マーク欄を正確にぬりつぶしてください。
- 2 問題冊子の印刷不鮮明等があった場合は手を挙げて監督の先生に申し出をしてください。
- 3 HBまたはBの黒鉛筆（シャープペンシルも可）を使用し、ボールペンは使用しないでください。
- 4 訂正する場合は、消しゴムできれいに消してください。
- 5 解答用紙の氏名欄に氏名を、受験番号欄に受験番号を記入し、受験番号をマークしてください。
- 6 試験終了後、問題用紙・解答用紙は回収します。

記入例 （例：享栄太郎、受験番号012345番、受験科目 国語）

鉛筆はHBを使用すること 【記入例】 良い例  悪い例  ※受験番号を記入しマークしてください。	氏名 享 栄 太 郎					受験科目名 国 語																																												
	受験番号																																																	
	0	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	14	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	27	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	40	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	
	0	0	0	0	0	0	2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	15	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	28	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	41	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
	1	1	1	1	1	1	3	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	16	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	29	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	42	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
	2	2	2	2	2	2	4	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	17	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	30	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	43	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
	3	3	3	3	3	3	5	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	18	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	44	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
	4	4	4	4	4	4	6	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	19	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	32	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	45	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
	5	5	5	5	5	5	7	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	20	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	33	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	46	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
	6	6	6	6	6	6	8	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	21	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	34	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	47	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
	7	7	7	7	7	7	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	22	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	35	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	48	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
	8	8	8	8	8	8	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	23	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	36	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	49	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
	9	9	9	9	9	9	11	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	24	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	37	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	50	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
						12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	25	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	38	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	51	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	
						13	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	26	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	39	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	52	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	

【一】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

1 かつて「ふみ」と呼んだ言語表記のための符号システムを、今の私たちは「文字」と呼んでいます。今の中国でもやはり「文字」と呼びます。しかしもともと古代中国でおこなわれた漢字に対するくわしい研究の場では「文字」を二つにわけ、「文」と「字」をそれぞれ異なった概念として使いわけていました。

2 (1) この区別は、これまでに漢字が作られてきた筋道を分析した結果として考え出されたものです。昔から今まで、中国では驚くほどたくさんの漢字が作られてきましたが、しかしその過程をくわしく考えると、実際には二つの段階しかなかったということが出来ます。

3 たとえば「講」と「義」という漢字を考えてみましょう。この二つの漢字ができる前には絶対に《言》と《葺》、あるいは《羊》と《我》という漢字が存在していたはずで、同じように「詞」という漢字ができる前には、かならず《言》と《司》という漢字が存在していたはずで、

4 こう考えれば、(2) すべての漢字が同時にできたわけではない、ということがわかるでしょう。今の漢字の辞典には数万字もの漢字がオサめられています、その大量の漢字が、チク積されてくる過程では、はじめに基本的な単位として使われる一群の文字が作られ、次にそれらを組みあわせた第二段階の文字が作られた、という(3)プロセスがあったはずで、

5 中国の伝統的な文字研究では、漢字の成立をこのように二段階にわけて考え、最初にできた「単体」(それ以上分割できないもの)のものを「文」と呼び、あとからできた「複体」(単体の文字をいくつか組みあわせたもの)のものを「字」という名称で呼んで、両者を明確に区別していました。

6 「文」は他の文字を作る要素となりうるものですから、単独で漢字のヘンやツクリとなることが出来ます。それに対して、ヘンやツクリなどに分解できる漢字が「字」である、ということになります。

7 そのことを上にあげた例で説明すれば、最初にあった《言》と《葺》、《羊》と《我》、あるいは《言》と《司》が「文」で、それらを組みあわせた《講》や《義》、あるいは《詞》が「字」になるわけです。さらに思いつくままにほかに例をあげれば、

(4) ・水・ (5) ・鳥・牛・犬・龍・門

などはいずれも「文」で、それらを構成要素として使っている、

(6) ・港・ (7) ・鶴・物・狗・襲・間

などが「字」である、ということになります。

8 ある漢字をいくつかの構成要素に分解し、その文字の成り立ちからその字が本来どのような意味であったかを考えること、⁽⁸⁾すなわち漢字の字源を研究することは、現代の日本人にも⁽⁹⁾非常に興味深く感じられるようです。⁽¹⁰⁾そんな内容の書物がいろんな出版社から何冊も出されていますし、私自身もそんな内容の本を書いたことがあります。

9 出版の世界だけではなく、日常的な社会生活の中でも、漢字の字源の話に出あうことがしばしばあります。(11)校長先生や会社の社長さんが、なにかのセレモニーや式典のあいさつでされる話とか、また結婚式のスピーチなどでは、漢字の字源をふまえた話がよく語られます。

10 私は自分の小学校の卒業式で、「親」という字について⁽¹²⁾校長先生が話されたことを今もはっきり覚えています。それはだいたい次のような話でした。

11 「親」という漢字は《木》と《立》と《見》の三つの組みあわせでできているが、それは親とは《木》の上に《立》って子供を《見》ている人のことだからである。

12 君たちは今日、晴れて小学校を卒業するが、ここまで成長できたのは、ひとえにご両親がずっと君たちを見守ってくださったおかげである。さらにこれからもご両親は君たちをずっと暖かく見守ってくださるにちがいない。親とはこのように、まことにありがたい存在なのである……

13 この話がわが恩師オリジナルのものかどうかは知りませんが、小学校の卒業式で語られたのですから、卒業していく子供たちは胸にじーんときます。それは両親に対する感謝の気持ちを呼び起こす、まことに良くできた訓話だと思えますし、はじめてそれを聞いた時は、子供心に感動しましたし、その説明にはなるほどと納得したものでした。

14 漢字の成り立ちをふまえた話は、しかしそんな⁽¹³⁾いい内容のものばかりでもありません。次に紹介するのは、もうずいぶん前の事件になりますが、「ペーパー商法」という名前で世間を^dサワガセタ大きな詐欺事件で、独り暮らしの孤独な老人から虎の子の財産をむしりとる時に使ったとされる「殺し文句」でした。

15 ⁽¹⁴⁾たわいもない世間話などで孤独な老人に近づいたセールスマンは、あくどい契約を取りつけようとして、なかなか首を縦に振らない老人に、「私のいう通りにすれば、きつとお金がもうかりますよ。ほら「儲かる」という字は《人》の《言》うことを《信》じる《者》と書くじゃないですか……」とことばたくみに老人をだましこんだそうです。

16 漢字を構造分解し、その成り立ちから本来の意味を考えるとこの話にはなにも最近の日本で始まったことではなく、中国ではずっと昔からおこなわれてきたことです。

17 北宋時代の政治家であり、また高名な文学者でもあった王安石^{おうあんせき}（一〇二一—一〇八六年）も漢字の成り立ちを考えるのが趣味で、彼はやがて自らの文字研究の成果を『字説』という書物にまとめました。

18 その王安石がある時、同じく宋代を代表する文学者である蘇軾（一〇三六—一一〇一年）に「波」とは水の皮である」と語ったところ、蘇軾から「では「滑」とは水の骨か」とからかわれた、という話があります。

19 「親」と「儲」と「波」という三つの漢字について成り立ちにまつわる話を紹介しましたが、しかし実はその三つの解釈は、文字学的に見れば残念ながら

(15)

20 最初の「親」はよくできた説得的な話で、ついつい信じこんでしまいましたが、古い字形での「親」は《立》の下が《末》になっています。だから《木》の上に立っているという点がまちがいののですが、それでも両親が見えない所からそつと子供を見守っているというのは、実にいい話です。

21 次の「儲」は、デタラメもいいところですが、「儲」は《人》と《諸》からなる形声文字で、《諸》は単に発音を表す要素にすぎませんが、しかし「人」一見したところ「儲」にはニンベンがあり、真ん中には《言》、右には《者》があつて、ニンベンと《言》を組みあわせると「信」になります。しかし「人の言うことを信じる」という説明では真ん中の《言》を二回使っています。漢字にはこのように一つの要素を重複して機能させる作り方がありません。だから落ち着いて考えれば、まったくのデタラメであることがわかるはずですが、しかしはじめてそれを聞いた時には、思わず信じこんでしまうこともあるでしょう。このあたりが漢字の魔力といえるのかもしれない。

22 最後の「波」は、反論として出された「滑」とともに、《水》が意味を表す要素で、ツクリの《皮》と《骨》はどちらも発音を表す要素にすぎません。王安石は、その部分の意味を考えたために、誤った解釈をしてしまったというわけです。

【『漢字のはなし』 阿辻哲次 岩波ジュニア新書】

問1 二重傍線部 a 「オサ」、b 「チク」を漢字に直したとき、同じ漢字を用いるものを、それぞれ①～⑤の中から一つずつ選びなさい。

解答番号は ・。

a オサ^{||}め ① 曲をシユウ^{||}録する。 ② ノウ^{||}税の義務。 ③ 病気をナオ^{||}す。 ④ シユウ^{||}学旅行。 ⑤ 怒りをオサ^{||}える。

b チク^{||}積 ① チク^{||}産業を営む。 ② 駆チク^{||}する。 ③ 含チク^{||}のある物言い。 ④ 松チク^{||}梅を飾る。 ⑤ 家を建チク^{||}する。

問2 二重傍線部 c 「単独」と熟語の構成が同じものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は 。

- ① 読書
- ② 増加
- ③ 進退
- ④ 曲線
- ⑤ 雷鳴

問3 二重傍線部 d 「サワガセタ」を漢字と送り仮名に直したとき、正しいものを次の①～④の中から一つ選びなさい。解答番号は 。

- ① 騒わがせた
- ② 騒がせた
- ③ 騒せた
- ④ 騒た

問4 傍線部(1)「この区別」の説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は 。

- ① 「ふみ」と「文字」を明確にわけていること。
- ② 「文字」の呼び方を日本と中国でわけていること。
- ③ 「ふみ」を漢字にしたとき、「文」と「字」で使いわけていること。
- ④ 「文字」を「文」と「字」の概念にわけていること。
- ⑤ 「文字」の読み方を「ふみ」と「もじ」で使いわけていること。

問5 傍線部(2)「すべての漢字が同時にできたわけではない」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は 。

- ① 基本的な単位として使用される漢字と、それらを組みあわせてできた漢字は、まったく別の文字だということ。
- ② 基本的な単位として使用される漢字と、それらを組みあわせてできた漢字は、使用された時代が違うということ。
- ③ 基本的な単位として使用される漢字と、それらを組みあわせてできた漢字は、成立した場所が違うということ。
- ④ 最初にヘンヤツクリなどに分解できる漢字ができ、その後いろいろな漢字を分解して別の漢字ができたということ。
- ⑤ 最初に基本的な単位として使用される漢字ができ、その後いろいろな漢字を組みあわせて別の漢字ができたということ。

問6 傍線部(3)「プロセス」の意味を次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は 。

- ① 過程
- ② 構想
- ③ 制限
- ④ 規則
- ⑤ 基盤

問7 空欄 ・ ・ ・ に当てはまる語の組み合わせとして、最も適当なものを次の①～④の中から一つ選びなさい。解答番号は 。

- | | | | | | | | | |
|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|---|
| ① | (4) | 山 | (5) | 崎 | (6) | 馬 | (7) | 駆 |
| ② | (4) | 山 | (5) | 馬 | (6) | 崎 | (7) | 駆 |
| ③ | (4) | 山 | (5) | 駆 | (6) | 崎 | (7) | 馬 |
| ④ | (4) | 崎 | (5) | 駆 | (6) | 山 | (7) | 馬 |

問8 傍線部(8)「すなわち」、(9)「非常に」の品詞として最も適当なものを次の①～⑩の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は ・ 。

(8) すなわち (9) 非常に

- ① 名詞 ② 副詞 ③ 連体詞 ④ 接続詞 ⑤ 感動詞
⑥ 動詞 ⑦ 形容詞 ⑧ 形容動詞 ⑨ 助詞 ⑩ 助動詞

問9 傍線部(10)「そんな内容の書物」の説明として最も適当なものを次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は 。

- ① 言葉の意味を決め、漢字の成り立ちに当てはめていくという内容の書物。
② 漢字の構成要素を分解し、もう一度組みあわせて新しい漢字を作るとい内容の書物。
③ 言葉の意味を漢字のヘンやツクリに当てはめて、言葉と文字の関連を研究する内容の書物。
④ 漢字を構造分解し、その成り立ちから意味を考えていくという内容の書物。
⑤ 言葉をいくつかの構成に分解し、その成り立ちから漢字を決定するという内容の書物。

問10 空欄 に当てはまる語として最も適当なものを次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は 。

- ① もしも ② そこで ③ しかし ④ たとえば ⑤ きっと

問11 傍線部(2)「校長先生が話されたこと」の引用部分はこの部分か。最も適当なものを次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は

- | | | | | | | |
|---|----|-----|----|-----|----|----|
| ① | 10 | 段落と | 11 | 段落と | 12 | 段落 |
| ② | 10 | 段落と | 11 | 段落 | | |
| ③ | 11 | 段落と | 12 | 段落 | | |
| ④ | 11 | 段落と | 12 | 段落と | 13 | 段落 |
| ⑤ | 12 | 段落と | 13 | 段落 | | |

問12 傍線部(3)「いい内容のものばかりでもありません」と筆者が述べているのはなぜか。最も適当なものを次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は

- ① 漢字の成り立ちをふまえた話は、あくどい契約や人をだます目的で使われることもあるから。
- ② 漢字の成り立ちをふまえた話は、中途半端な知識で披露すると相手にかかわれるから。
- ③ 漢字の成り立ちをふまえた話を、卒業式などの式典で披露しても感動されないから。
- ④ 漢字の成り立ちをふまえた話は、独り暮らしの老人には通用することがないから。
- ⑤ 漢字の成り立ちをふまえた話を、中国の人たちはまったく理解していないから。

問13 傍線部(4)「たわいもない」の意味を次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は

- ① 取り上げるべきの
- ② 他人を気にしない
- ③ 自分を顧みない
- ④ 他人を愛せない
- ⑤ 取るに足りない

問14 空欄 (15) に入る語句として最も適当なものを次の①～④の中から一つ選びなさい。解答番号は (16)。

- ① 一つだけ誤っています
- ② 誤っているものもあります
- ③ 誤っているものではありません
- ④ すべて誤っています

問15 傍線部(16)「まったくのデタラメであることがわかる」と筆者が述べているのはなぜか。最も適当なものを次の①～④の中から一つ選びなさい。解答番号は (17)。

- ① 漢字には一つ一つに意味があり、構造分解してバラバラにしたら意味をなさないから。
- ② 「儲」は《信》と《者》から成り立つ漢字のため、《言》の要素は含まれていないから。
- ③ 漢字には一つの要素を重ねて使用し、意味を生み出すような作り方をしていないから。
- ④ 「人の言うことを信じる」という説明だけでは、「儲」の字の形にはならないから。

問16 傍線部(17)「その部分」の説明として最も適当なものを次の①～④の中から一つ選びなさい。解答番号は (18)。

- ① 《波》の字のツクリにあたる《皮》の部分。
- ② 《波》の字のヘンにあたる《皮》の部分。
- ③ 《波》の字の意味を表す要素の《水》の部分。
- ④ 《波》の字の発音を表す要素の《水》の部分。

問17 本文中で述べられている内容と合うものを次の①～④の中から一つ選びなさい。解答番号は 19。

- ① 「文」とは「字」ができたあとに生まれた、それ以上分割できないものである。
- ② 漢字の字源をふまえた話は、結婚式や卒業式など、感動できる場面でしか使われない。
- ③ 漢字の成り立ちから文字そのものの意味を考察する研究は中国ではおこなわれていない。
- ④ 漢字の成り立ちの話は、間違っている内容でも人を信じさせてしまう力がある。

【二】 次の各問いに答えなさい。

問1 次の(1)～(3)の「 」内の空欄には、それぞれ同じ漢字が入る。最も適当なものを、あとの①～⑤の中からそれぞれ選びなさい。

解答番号は 20 ～ 22。

(1)	(2)	(3)
 がつく	 に火がつく	 につく
 が棒になる	 をたたく	 が高い
蛇 	 が青い	木で をくぐる
 が出る	頭隠して 隠さず	 を明かす
 20	 21	 22

- ① 手
- ② 胸
- ③ 鼻
- ④ 腰
- ⑤ 目
- ⑥ 足
- ⑦ 耳
- ⑧ 頭
- ⑨ 腕
- ⑩ 尻

問2 次の文章の空欄 23 ～ 32 に当てはまる言葉を後の①～⑩の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は 23 ～ 32。

古典作品は、長い歴史の中で語り継がれ、親しまれてきた。平安時代には、貴族文化が栄え、物語文学や随筆が発展した。『 23 』はその代表的な長編物語であり、作者は 24 である。この作品は、光源氏という貴族の恋愛や人生を描いたもので、日本最古の長編小説とも言われている。

同じく平安時代の随筆として知られる『 25 』は、作者 26 が宮廷生活の中で感じたことを、美しい言葉で綴った作品である。これらの作品は、当時の貴族社会や人々の感性を知る貴重な資料となっている。

鎌倉時代に入ると、仏教的な無常観が文学に色濃く反映されるようになった。『 27 』は、作者 28 が自然災害や人間の生き方について述べた随筆であり、簡素な方丈庵ほうじょうあんでの生活を通して、人生のはかなさを描いている。

同じく鎌倉時代の随筆『 29 』は、作者 30 によって書かれたもので、日常の出来事や人間の本質について鋭い観察がなされている。江戸時代になると、俳諧が盛んになり、旅をテーマにした紀行文も多く書かれた。『 31 』は、俳人 32 が東北地方などを旅し、その道中の風景や人々との交流を俳句とともに記録した作品である。

- | | | | | |
|--------|----------|--------|--------|--------|
| ① 源氏物語 | ② 鴨長明 | ③ 枕草子 | ④ 松尾芭蕉 | ⑤ 方丈記 |
| ⑥ 紫式部 | ⑦ おくのほそ道 | ⑧ 兼好法師 | ⑨ 徒然草 | ⑩ 清少納言 |

問題はここまでです。マークシートは 32 までです。